

大規模経営の農地集積における棲み分け状況-富山県高岡市での事例調査-

辻貫志（国際開発学分野）

【目的】

日本では農業の構造改善に向けて大規模経営への農地集積が進められており、その進展につれて大規模経営の農地集積における棲み分け状況を把握する必要性が高まっている。

本稿は、農地流動化の先進地域である富山県高岡市に併存する3つのタイプの大規模経営（大規模個別経営、集落営農、JA 出資や農業機械会社出資の大規模経営）の違いに着目し、対象地における（1）大規模経営の棲み分けの全体像、（2）大規模経営の農地集積の状況を考察し、大規模経営の農地集積における棲み分け状況を明らかにすることを目的とする。

【方法】

高岡市の188農業集落を対象とし、2015年の「農林業センサス」、「集落営農実態調査」の集落別データ、「全国農地ナビ」の農地情報を利用して、高岡市の大規模経営97（集落営農60、農家による出資中心の内部出資型経営34、農業機械会社出資の大規模経営やJA出資型法人等の外部出資型経営3）の出作状況と耕作筆数を集計した。

また、高岡市の大規模経営（大規模個別経営I、O、N、集落営農H、農業機械会社出資の大規模経営K）の経営者への聞き取り調査を実施し大規模経営の農地集積の状況について、大規模経営のタイプ別に整理した。

【分析結果】

高岡市において、大規模経営がない集落が47、1ついる集落が46、2つ以上いる集落が95存在した。ただし、出作しているとみなす条件を耕作筆数1筆以上から10筆以上に変更すると、大規模経営が2つ以上いる集落は47に半減する。タイプ別にみると、内部出資型経営が河川付近、集落営農が中山間地域、外部出資型経営が都市的地域周辺に多い傾向が見受けられた。

大規模個別経営は地権者との個別的関係が良好で居住集落周辺での農地集積を進めており、集落営農Hは設立された地区内での農地集積を進めていた。農業機械会社出資の大規模経営Kは、ICT技術による効率的な生産管理を進めつつ規模拡大していた。

【結論】

高岡市において、大規模経営は基本的に集落ごとの棲み分けを進めている。集落内での棲み分けは先進的な集落に限定されているが、先進集落では大規模個別経営と集落営農の農地集積ゾーニングを確認できた。

大規模経営はタイプ別の特長を生かした棲み分けの状況にあるといえる。

大規模個別経営は、家族中心で雇用が少ないため、高地代を設定でき、地権者との個別的関係も良好で居住集落周辺での農地集積を進めている。集落営農Hは、雇用が多く地区内の地代水準が高いため、設立された範囲内で農地集積を進めているが、規模拡大は難しい。集落営農は、大規模個別経営のいない中山間地域を中心に存在している。農業機械会社出資の大規模経営Kは、雇用が多く、低地代を設定して他の大規模経営との農地をめぐる競争を回避し、都市的地域周辺への農地集積を進めているが、圃場分散の状況にある。